

授業科目名 (英文表記)	熊野郷土学 A ～郷土学からの地域振興～ (Kumano hometown study A)			(新宮市会場)
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義	
担当教員	久富 邦彦、此松 昌彦、江種 伸之、中串 孝志、出口 竜也、高須 英樹			
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目	
実施日・時間	① 6月3日(土) 13:00～17:00	教育学部・久富邦彦		
	② 6月24日(土) 13:00～17:00	システム工学部・江種伸之 (後誠介)		
	③ 7月8日(土) 13:00～17:00	観光学部・中串孝志、ゲスト		
	④ 7月29日(土) 13:00～17:00	非常勤講師・高須英樹		
	⑤ 8月5日(土) 13:00～17:00	教育学部・此松昌彦、観光学部・竹林浩志 (杉山幹夫)		
	⑥ 8月26日(土) 13:00～17:00	観光学部・出口竜也 (山田桂一郎)		

【授業のねらい・概要】

「熊野郷土学 A」では、熊野地域の地質地形、気候、生物の自然環境などからなる、周辺環境の学習から「郷土：熊野地域」を取り上げ、その地域の独自性や多様性について総合的に解説していきます。それを活用することが、地域の独自性をより高め、特徴的な地域資源を情報発信する意義や、持続可能な地域経営について考える機会とします。後期開講の「熊野郷土学 B」では、その後半部分において、紀伊半島の地域資源の特徴から、それを取りまく文化によって作り出された地域産業とその振興を中心に取り上げます。学生、自治体職員、地域づくり関係者、観光商工関係者、地域ガイド、ジオパーク関係者、教育関係者、Uターン者など、幅広い分野からの受講を期待します。

【授業計画】 ※記載の内容は変更することもあります。

- 第1回 ガイダンス「紀伊半島の生い立ちー地質と地形ー」(教育学部・久富邦彦)
紀伊半島の地質と地形について概略的に学びます。
- 第2回 「熊野地域の地形地質からの災害史、今後の防災減災を考える」
(システム工学部・江種伸之、災害科学教育研究センター客員教授・後誠介)
豪雨災害をテーマに、熊野地域の災害の歴史を読み解きながら(今後の防災・減災、災害発生時の対応)について考えます。
- 第3回 「ジオパーク その実態と課題」(観光学部・中串孝志)
地域の豊かな自然、地球の恵みを活用する活動「ジオパーク」は、地域振興の期待を集めています。南紀熊野ジオパークも世界認定を目指しています。その実態と課題を紹介します。
- 第4回 「紀伊半島の自然と林産物の利用」(和歌山大学名誉教授、和歌山県立自然博物館館長・高須英樹)
和歌山県熊野熊野地域の気候特性、植生と植物相、林産物の利用、製炭業の過去・現在そして未来を考えます。
- 第5回 地域情報を発信する。ローカルウィキ、OSM地図で街を編集する。
(教育学部・此松昌彦、観光学部・竹林浩志、杉山幹夫)
熊野地域の資源の発掘と活用を推進するとともにインターネット上で編集発信する手法を習得します。
- 第6回 「郷土の独自性を持続可能な地域経営につなげるには」(観光学部・出口竜也、山田桂一郎)
熊野地域の独自性とポジショニングから持続可能な地域経営とは何か考えます。

【到達目標】

紀伊半島の産業について考え、自らのことばで語るができる。またそれらの興味に基づいて、自ら文献等を調べることができる。

【教科書】

特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。

【参考書】

「観光立国の正体」藻谷浩介、山田桂一郎著 新潮新書
講義時に適宜、紹介します。(学部開放授業受講者用シラバスには記載されません。)
出席状況と議論への参加、授業態度やレポートなど総合的に評価します。

【授業時間外学習】 (学部生用には必須、学部開放授業受講者用は任意。共通でも可)

紀伊半島の郷土や産業のニュースについて関心を持ちながら集めておいてください。
地域でどんなことが話題になっているのか整理しておいて下さい。復習と自主的な学習が必要です。

【履修上の注意・メッセージ】

基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。郷土の地形地質が地域の暮らしにどうつながるのか考えてみて下さい。